

表2 仙台市における津波被災地域の昼間人口と在宅率の推定 (文献 [4])

	人口	区外就業者	区外通学者	区外滞在者	昼間人口	在宅率
仙台市宮城野区	190,473	40,151	5,971	46,122	144,351	0.758
蒲生字	3,511	648	128	776	2,735	0.779
蒲生2丁目	716	142	17	159	557	0.778
白鳥1丁目	1,990	387	75	462	1,528	0.768
白鳥2丁目	1,105	181	29	210	895	0.81
高砂1丁目	2,303	489	57	546	1,757	0.763
岡田字	1,827	317	58	375	1,452	0.795
鶴巻1丁目	1,021	194	40	234	787	0.771
鶴巻2丁目	148	24	4	28	120	0.811
鶴巻地区合計	1,169	218	44	262	907	0.776
仙台市若林区	132,306	29,658	4,221	33,879	98,427	0.744
荒浜字	1,570	297	59	356	1,214	0.773
荒浜新1丁目	435	83	12	95	340	0.782
荒浜新2丁目	588	151	10	161	427	0.726
荒浜地区合計	2,593	531	81	612	1,981	0.764
荒井字	1,405	232	51	283	1,122	0.799
飯田字	291	61	9	70	221	0.759
今泉字	548	81	6	87	461	0.841
今泉1丁目	1,720	363	46	409	1,311	0.762
今泉2丁目	1,618	325	50	375	1,243	0.768
今泉地区合計	3,886	769	102	871	3,015	0.776
霞目2丁目	1,997	399	44	443	1,554	0.778
上飯田1丁目	1,968	427	65	492	1,476	0.75
上飯田2丁目	2,474	522	71	593	1,881	0.76
上飯田3丁目	2,389	504	62	566	1,823	0.763
上飯田4丁目	1,262	249	36	285	977	0.774
上飯田地区合計	8,093	1,702	234	1,936	6,157	0.761
井土字	375	73	10	83	292	0.779
藤塚字	319	59	6	65	254	0.796
種次字	389	71	7	78	311	0.799
二本塚字	321	61	12	73	248	0.773
三本塚字	578	67	8	75	503	0.87
下飯田字	195	37	6	43	152	0.779
六丁の目中町	2,066	344	51	395	1,671	0.809



図4 仙台市の津波被災地域における在宅率の分布状況

なったというのは事実であろうし、名取市閘上2丁目では4人に1人が津波の犠牲になったとのTV報道〔5〕も、実際には3人に1人だった可能性の方が高いものと思われる。逆に他地域との比較において、宮古市田老地区の二重防潮堤に保護された旧市街地や仙台市若林区の荒浜地区において犠牲者が比較的少なかった点は評価に値するのではなかろうか。

#### 4. 3.11 津波災害から見えてくる学校の役割

以上に述べてきたように、津波災害における犠牲者の多さは地域毎に大きく異なるものであり、その理由としては①地理あるいは地形などの地域の自然環境、②津波災害に対する防潮堤や避難計画などの地域の社会環境、③津波の発生時刻や季節など様々な要因が考えられる。とりわけ①の自然環境をよく踏まえた上での②の社会環境を整えておくことが肝要であろうと思われるが、その上で特に重要な問題は、学校が地震・津波対策の視点から、地域社会にどのように関わることができるのか、ということではなかろうか。地域社会と一体となって防災対策を構築することはもちろん重要なことであるが、その中で地域社会の雰囲気や飲み込まれるのではなく、地域社会に対して適切なリーダーシップを存分に発揮できるような態勢を日頃から整えておくことが、今、学校に求められていることではないかと考えられる。

#### 5. おわりに（謝辞に代えて）

本報の作成にあたっては、3.11 津波災害を受けた宮城県内の数多くの小中学校を実際に見せて頂き、被災時の体験談を直接・間接に伺う機会に恵まれたことが下敷きとなっている。このような貴重な機会を与えてくださった宮城教育大学教育復興支援センターの教職員各位に深甚なる謝意を表したい。訪問先の多くの学校や仙台市、石巻市、名取市、山元町の皆様には、突然の訪問にも関わらず親切に対応していただき、情報不足の点については、既往の文献やインターネットによって貴重な資料を得ることができ、本報の中にも一部を引用させて頂いた。これらのご関係各位に対しても心から感謝を申し上げたい。最後に、東日本大震災で犠牲になられた方々のご冥福と、被災から4年後の今日までご苦勞の絶えない被災者の皆様のご健康と一日も早い復興をお祈りしながら、本報告を閉じさせて頂きたい。

#### 参考文献

- [1] 瀬尾和夫：津波災害と学校 - 東日本大震災時の津波避難行動から学んだこと -, 宮城教育大学教育復興支援センター紀要, 第2巻, pp.1-14, 2014.
- [2] 大川小学校事故検証委員会：大川小学校事故検証報告書, 2014.2.
- [3] 石巻市生活環境部市民課：被害統計 東日本大震災における石巻市の犠牲者数〔人口 (2011.2. 現在), 犠牲者 (2014.2. 現在)〕
- [4] 仙台市ホームページ, 統計情報せんだい, 国勢調査 (2010.10.1.) 資料
- [5] NHK スペシャル取材班：巨大津波 その時ひとはどう動いたか, 岩波書店, 2013.3.
- [6] 山元町ホームページ, 山元町統計書 (平成 19 年度) [企画財政課], 行政区別人口及び世帯数 (平成 19 年 12 月末現在) 資料
- [7] 毎日新聞「震災検証」取材班：検証「大震災」伝えなければならないこと, 毎日新聞社, 2012.2.
- [8] 原口強・岩松暉：東日本大震災 津波詳細地図 上巻, 古今書院, 2011.10.
- [9] 宮城県総務部危機対策課：宮城県第三次被害想定調査 浸水域予測図 574163-4, 2004.3.  
<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/kikitaisaku/ks-sanzihigai-sinsuiyosokumap-top.html>